

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

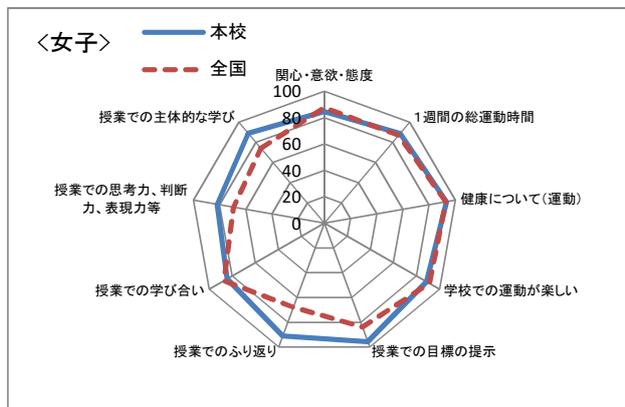
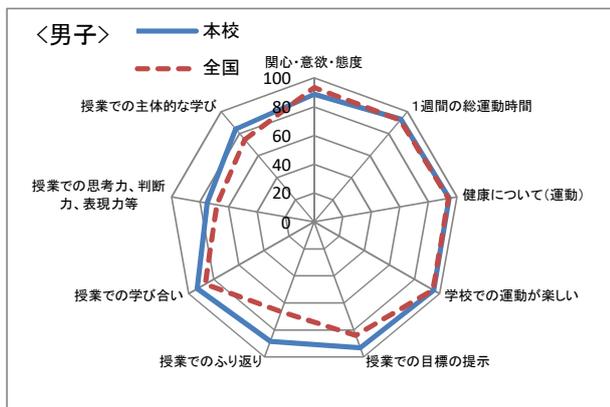
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
本市	16.56	20.49	33.51	42.17	52.49	9.39	153.34	22.91	54.52
本校全国平均以上の種目		○			○		○		

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59
本市	16.49	19.55	38.14	40.49	42.02	9.64	147.47	13.79	56.34
本校全国平均以上の種目	○			○	○		○		

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

・「授業での目標の提示(質問13:体育の授業では、授業の始めに授業の目標<目当て・ねらい>が示されている)」、「授業での振り返り」については、男女ともに全国平均より20ポイント以上高かった。【まとめや振り返り活動のある授業の定着】をスクールプランに掲げ、全校体制で取組を進めていることの成果と考えられる。

・「関心・意欲・態度(質問1:運動やスポーツが好き)」については、男女とも全国平均を下回っている。また、「学校での運動が楽しい(質問11:体育の授業は楽しい)」については、男子は全国平均と同程度、女子は全国平均を下回っている。体を動かすことに一層興味をもてるような手立てが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・分析結果を全教職員で共通理解し、各学年の課題克服に向けた体育科の授業改善に取り組む。

・毎回の準備運動時に、体力向上プログラムを引き続き取り入れる。プログラムは、本時の学習に沿った運動領域のものを選択する。

・運動やスポーツを苦手としている児童でも楽しめるよう、場やルールの設定に柔軟性をもたせるなど、授業展開を工夫し、どの児童も体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・本校の1校1取組である「なわとびタイム」を継続して実施する。また、体育部が中心となって、「なわとびタイム」の実施時期や時間帯等を再考し、この取組がよりよい運動習慣につながるようにする。

・「早ね・早おき・朝ごはん」の啓発に加え、児童の体力や生活習慣の実態、体力向上の取組を、学校通信や保健だよりをもとに保護者へ周知を図り、各家庭での理解と協力を得られるようにする。